

今月のテーマ 大中尾棚田

田上市長の 恋と恋と

～自らの思いを皆さんに語るコラム～

外海の大中尾棚田に行った
ことがありますか？

日本一の清流ともいわれる
神浦川沿いを車でしばらく上
つていくと、左側に入り口が
あつて、上るとすばらしい棚
田の風景が見えてきます。

田んぼは全部で450枚ほ
どあつて、全体の面積はなん
と約8ヘクタール。石垣と田
んぼが段々に広がる風景は、
季節ごとに色が変わり、周り
の山や空と織りなす景色は、
初めて見る人にもなぜか懐か
しさを感ぜさせてくれます。

棚田の田園風景は、「原風
景」の一つとして、日本人の心
の中にしっかりと組み込まれ
ているのかもしれない。

大中尾棚田の起源は戦国時
代から江戸時代に
さかのぼります。
昔の人たちは、田
んぼと同じくらい
の面積に及ぶ美し
い石垣を組み上げ
るのに、いったいど
れほどの長い時間
をかけたのでしょ
うか。今、これだけ
の棚田を造りたい
と思っても、とても



「日本の棚田百選」のひとつ。今年の火祭りの様子は8ページで

造れないと思います。

それだけではありません。
この棚田に水を引くために、
昔の人たちは何と4.2キロに
及ぶ水路も造りました。大井
出水路といいますが、今もこの
水路を通じて流れてくる水
が、大中尾棚田の米を育てて
くれているのです。

そして、忘れてはならない
のは、米をつくり、棚田を守る
のは人だということ。大中尾
では棚田を守ろうとする地域
の皆さんが棚田保全組合をつ
くり、米を作り続けています。

でも、人口が減る中で棚田
を守り続けるのは大変です。
大中尾では早くから棚田オー
ナー制度をつくり、地区以外
の皆さんにオーナーになって
もらう仕組みをつくってきま

した。オーナー
の皆さんや、作
業を手伝いに来
てくれる学生さ
んたちもいて、大
中尾棚田は今も
毎年おいしい米
を私たちに届け
てくれています。
* * *
毎年、秋の収
穫が終わると、

大中尾棚田では火祭りが行わ
れます。あぜ道に約6000
個の竹灯笼を並べて火をつけ
ると、たくさん小さな炎が
風に揺らぐとても幻想的な光
景が出現します。たそがれ時
にしばらく眺めているうち
に、空の色が刻々と変わり、何
ともいえない美しく優しい風
景の中に自分があることを感
じます。

よその棚田の火祭りでは、
最近はいルミネーションが多
いのですが、外海では二つ
火をつけて回る竹灯笼を使っ
ています。そういえば、火祭り
の会場では外海でつくった鉄
火味噌やかりんとうなどが売
られています。外海には手
作りが似合います。

火祭りの少し前に開かれた
「外海ふるさと祭り」では、移
住してきた若い人たちがパン
屋やアクセサリーの工房を開
いていました。新しい手作りの
魅力も増えているようです。

すごく大きなものや豪華な
ものではなく、人の力が支え
ていることが分かるような小
さなものが集まって、外海の
魅力はできています。あなた
も外海への「小さな旅」に出か
けてみませんか？



ながさき
スチ
旅行
出かけて
見る・知る
まちの
オススメ
スポット

祖先と未来をつなぐ
外海歴史民俗
資料館

長崎駅から車で50
分、世界遺産の構成
資産である、外海の
出津集落にある外海
歴史民俗資料館。
1階には、外海地
区特有の石積集落景
観を映像やパネルで
紹介しているほか、
ド口神父の指導や技
術が活用された農具
などを展示していま
す。
2階には、そのド
口神父の紹介や、潜
伏キリシタンが聖母
マリアに見立てたマリ
ア観音像、イナツシヨ
様など貴重なキリス
ト教関連資料も。外
海地区を周遊する前
に歴史や民俗、文化
を学ぶことで、もう一
歩、深い学びがで
きるかも…。
「小さな旅」大中尾
棚田の寄り道にいか
がですか？